

# 第 65 回「山形県内家計の消費動向調査」結果

## (令和 4 年 9 月調査)

消費マインドは足踏み状態。先行きは引き続き慎重姿勢

### 【調査の要旨】

- **消費指数**は、▲103.2（前期比 2.1 ポイント上昇）と 2 期連続の改善となった。内訳は景気判断指数が▲58.5（前期比 1.2 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲44.7（前期比 3.3 ポイント上昇）と、景気判断指数が悪化となった一方、暮らし向き判断指数は改善となった。
- **今後の見通し**は、**消費指数が▲110.3（今回調査比 7.1 ポイント下落）と悪化の見込み**となっている。内訳は景気判断指数が▲59.5（今回調査比 1.0 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲50.8（今回調査比 6.1 ポイント下落）といずれも悪化が見込まれている。
- **大きな買い物**への支出意向をみると、「海外旅行」は横ばい、「住宅（マンション・中古住宅含む）・土地」は上昇となり、「自家用車（中古車含む）」「住宅リフォーム」は低下となった。
- **家計簿調査**は、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 464 千円と前年同期に比べて 33 千円の減少となった。支出面では支出計が 392 千円と前年同期比で 5 千円の増加となった。その結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 84.4%となり、前年同期に比べて 6.6 ポイントの上昇となった。
- **夏季ボーナスの支給状況**を尋ねたところ、「支給された」が 76.2%（前年比 3.3 ポイント上昇）と前年から上昇となり、7 割以上を占めた。

令和 4 年 10 月  
株式会社フィデア情報総研

## 目次

I.	消費指数（総括）	1
II.	消費指数（内訳）	3
1.	景気判断	3
（1）	景気判断の概況	3
（2）	景気判断の推移	4
2.	暮らし向き判断	5
（1）	暮らし向き判断の概況	5
（2）	暮らし向き判断の推移	6
III.	支出意向	7
（1）	支出意向D Iの推移	7
（2）	支出意向（大きな買い物）の推移	8
IV.	家計簿調査	9
V.	特別調査	11
1.	夏季ボーナスの支給状況と使い道について	11
（1）	夏季ボーナス支給の有無	11
（2）	支給状況	11
（3）	主な使い道	12
（4）	夏季ボーナスを貯蓄する目的	12
VI.	調査の概要	13

## 1. 消費指数（総括）

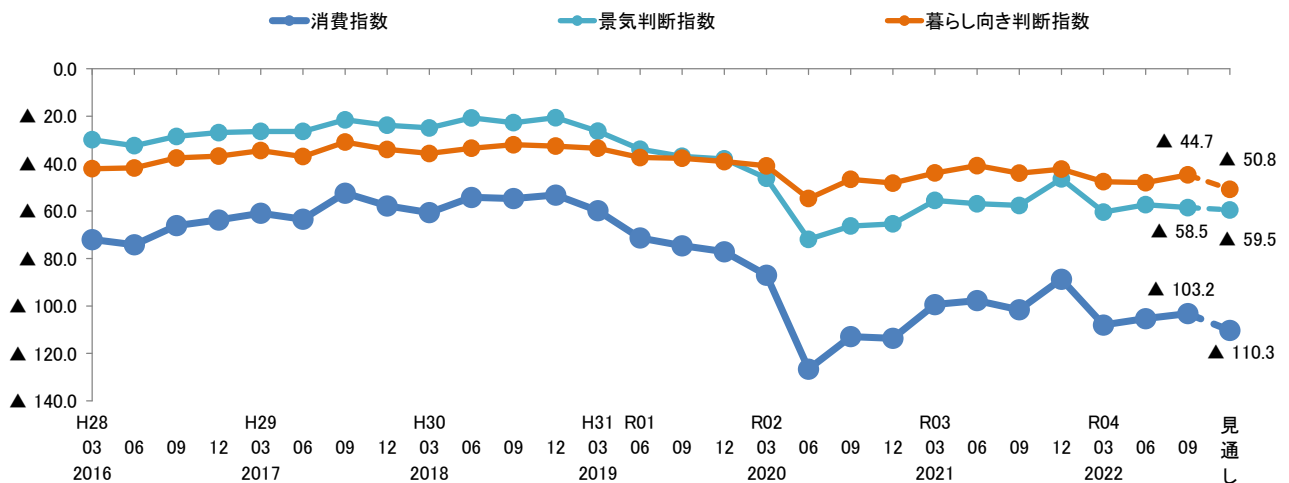
### ～消費マインドは足踏み状態。先行きは引き続き慎重姿勢～

消費指数は▲103.2（前期比 2.1 ポイント上昇）と 2 期連続の改善となった。内訳は景気判断指数が▲58.5（前期比 1.2 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲44.7（前期比 3.3 ポイント上昇）と、景気判断指数が悪化となった一方、暮らし向き判断指数は改善となった。

今後の見通しについては、消費指数が▲110.3（今回調査比 7.1 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲59.5（今回調査比 1.0 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲50.8（今回調査比 6.1 ポイント下落）といずれも悪化が見込まれている。

物価の上昇に伴う家計負担増加の影響などを受けて、足元の消費マインドには停滞感がみられる。また、先行きへの不透明感は依然強く、消費の慎重姿勢は今後も続くものと考えられる。

図表 1 消費指数の推移



#### 【指数の見方】

消費指数は（1）景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と（2）暮らし向き指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

数値は四捨五入により一致しない場合があります。



## II. 消費指数（内訳）

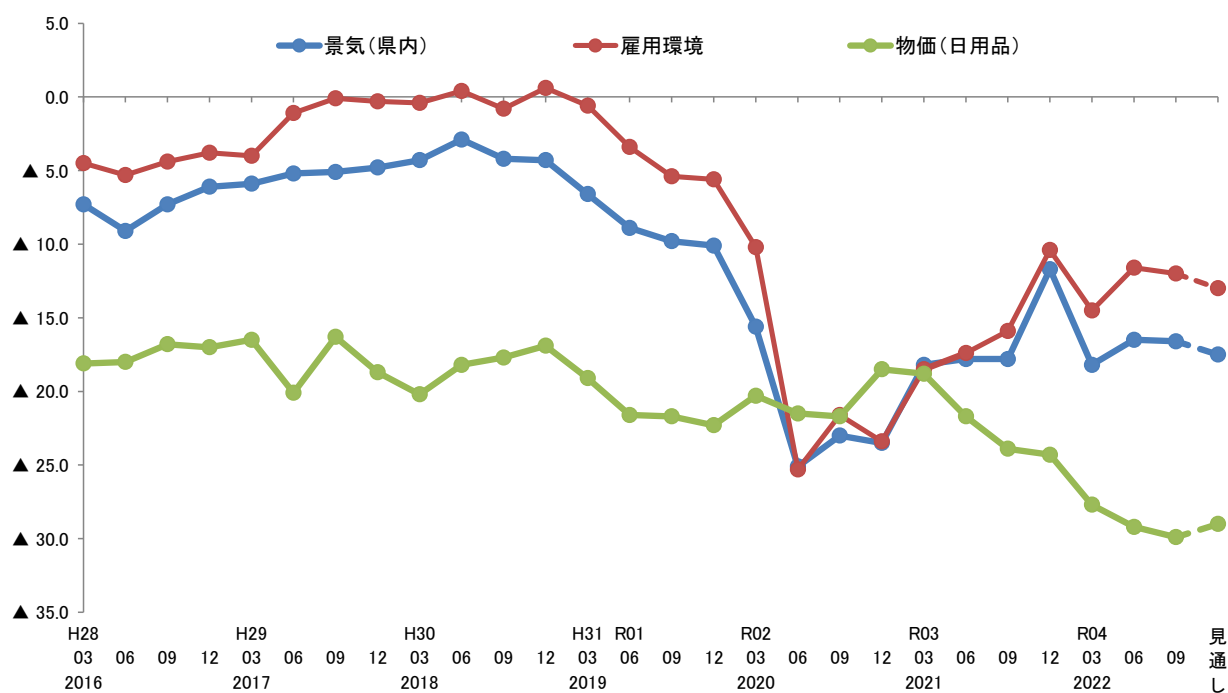
### 1. 景気判断

#### （1）景気判断の概況

景気判断指数は▲58.5（前期比 1.2 ポイント下落）と 2 期ぶりの悪化となった。景気判断指数を構成する 3 つの指数については、「景気（県内）」が▲16.6（前期比 0.1 ポイント下落）、「雇用環境」が▲12.0（前期比 0.4 ポイント下落）、「物価（日用品）」が▲29.0（前期比 0.7 ポイント下落）と、「景気（県内）」はほぼ横ばい、「雇用環境」と「物価（日用品）」は小幅ながら悪化となった。

今後の見通しについては、▲59.5（今回調査比 1.0 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

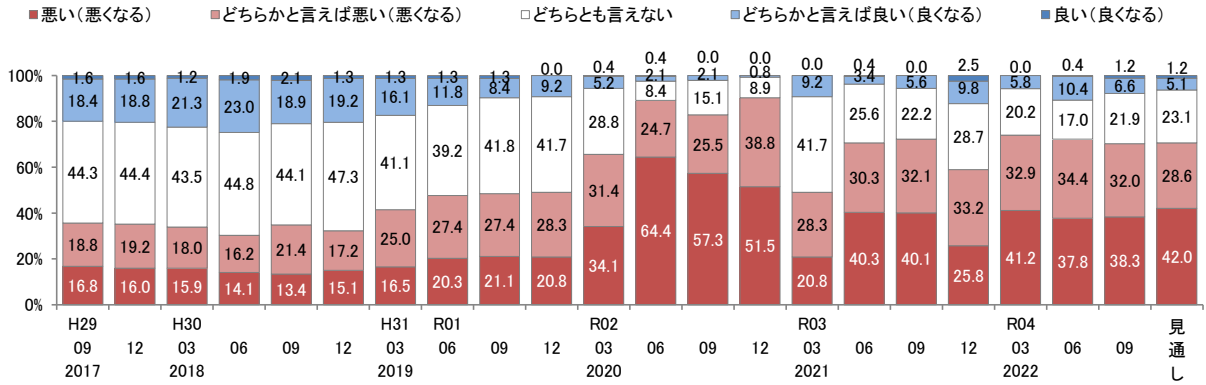
図表 3 景気判断指数（内訳）の推移



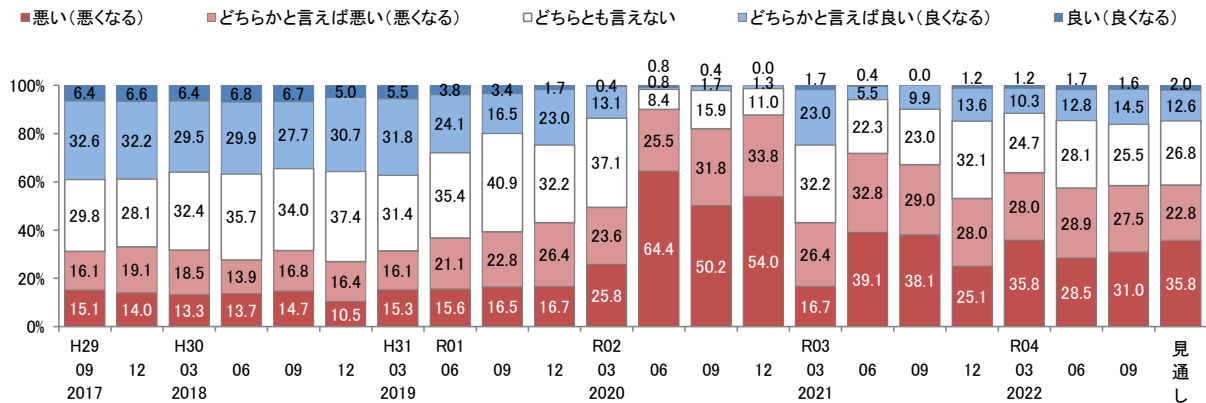
調査時期		景気判断指数			
		景気（県内）	雇用環境	物価（日用品）	
03年	3月	▲ 55.5	▲ 18.2	▲ 18.5	▲ 18.8
	6月	▲ 56.9	▲ 17.8	▲ 17.4	▲ 21.7
	9月	▲ 57.6	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 23.9
	12月	▲ 46.4	▲ 11.7	▲ 10.4	▲ 24.3
04年	3月	▲ 60.4	▲ 18.2	▲ 14.5	▲ 27.7
	6月	▲ 57.3	▲ 16.5	▲ 11.6	▲ 29.2
04年	9月	▲ 58.5	▲ 16.6	▲ 12.0	▲ 29.9
	(前期比)	(▲ 1.2)	(▲ 0.1)	(▲ 0.4)	(▲ 0.7)
	(前年同期比)	(▲ 0.9)	(1.2)	(3.9)	(▲ 6.0)
04年	見通し	▲ 59.5	▲ 17.5	▲ 13.0	▲ 29.0
	(前期比)	(▲ 1.0)	(▲ 0.9)	(▲ 1.0)	(0.9)

## (2) 景気判断の推移

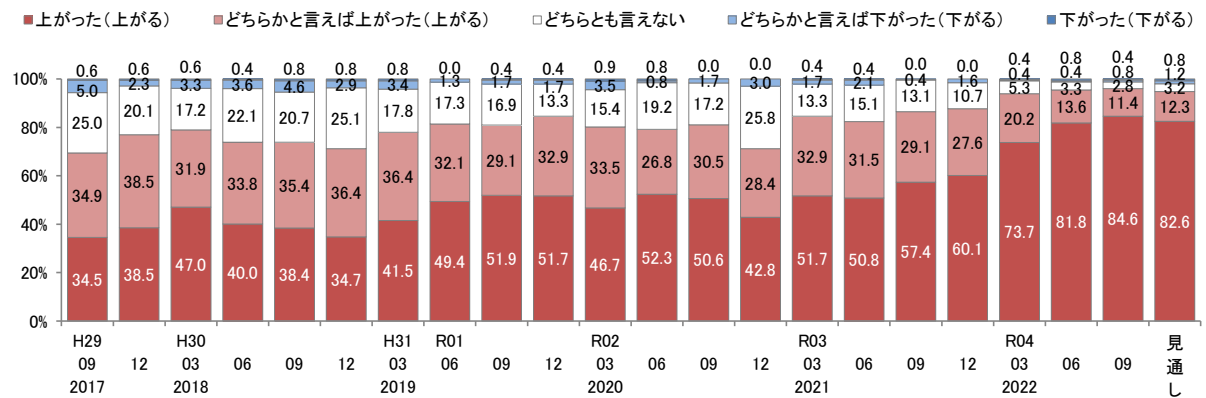
### ① 景気 (県内)



### ② 雇用環境



### ③ 物価 (日用品)



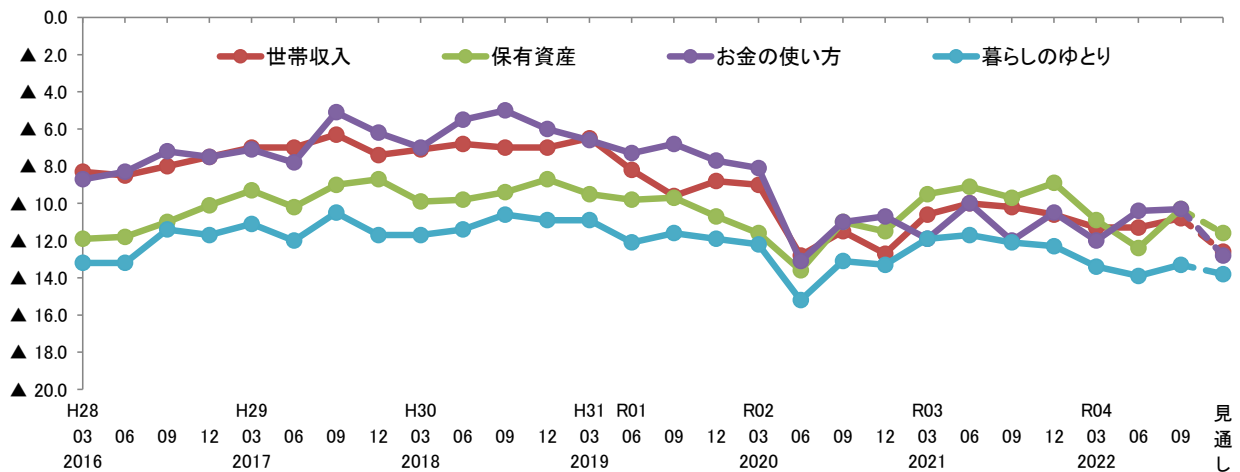
## 2. 暮らし向き判断

### (1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲44.7（前期比 3.3 ポイント上昇）と 3 期ぶりの改善となった。暮らし向き判断指数を構成する 4 つの指数については、「世帯収入」が▲10.8（前期比 0.5 ポイント上昇）、「保有資産」が▲10.3（前期比 2.1 ポイント上昇）、「お金の使い方」が▲10.3（前期比 0.1 ポイント上昇）、「暮らしのゆとり」が▲13.3（前期比 0.6 ポイント上昇）と、「お金の使い方」はほぼ横ばい、「世帯収入」「保有資産」「暮らしのゆとり」は改善となった。

今後の見通しについては、▲50.8（今回調査比 6.1 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

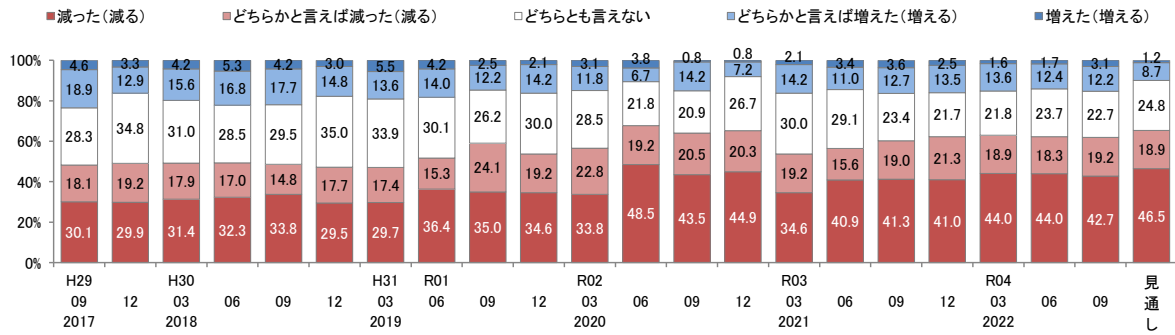
図表 4 暮らし向き判断指数（内訳）の推移



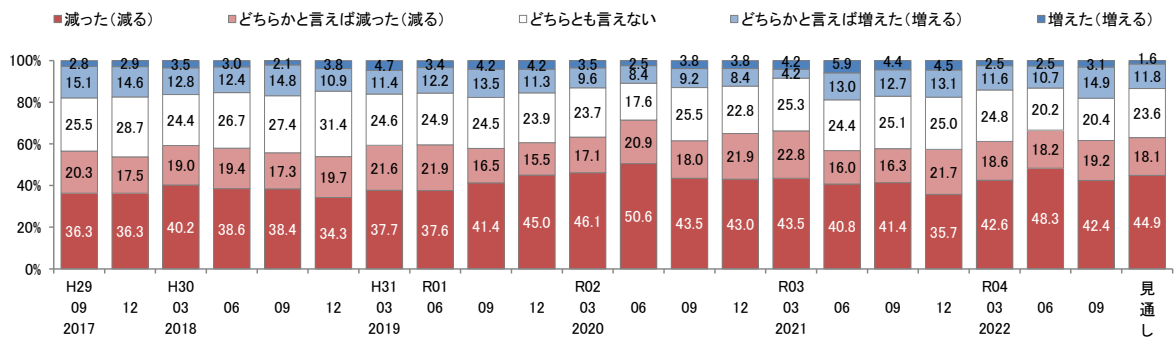
調査時期		暮らし向き判断指数				
		世帯収入	保有資産	お金の使い方	暮らしのゆとり	
03年	3月	▲ 43.9	▲ 10.6	▲ 9.5	▲ 11.9	▲ 11.9
	6月	▲ 40.8	▲ 10.0	▲ 9.1	▲ 10.0	▲ 11.7
	9月	▲ 44.0	▲ 10.2	▲ 9.7	▲ 12.0	▲ 12.1
	12月	▲ 42.3	▲ 10.6	▲ 8.9	▲ 10.5	▲ 12.3
04年	3月	▲ 47.6	▲ 11.3	▲ 10.9	▲ 12.0	▲ 13.4
	6月	▲ 48.0	▲ 11.3	▲ 12.4	▲ 10.4	▲ 13.9
04年	9月	▲ 44.7	▲ 10.8	▲ 10.3	▲ 10.3	▲ 13.3
	(前期比)	(3.3)	(0.5)	(2.1)	(0.1)	(0.6)
	(前年同期比)	(▲ 0.7)	(▲ 0.6)	(▲ 0.6)	(1.7)	(▲ 1.2)
04年	見通し	▲ 50.8	▲ 12.6	▲ 11.6	▲ 12.8	▲ 13.8
	(前期比)	(▲ 6.1)	(▲ 1.8)	(▲ 1.3)	(▲ 2.5)	(▲ 0.5)

## (2) 暮らし向き判断の推移

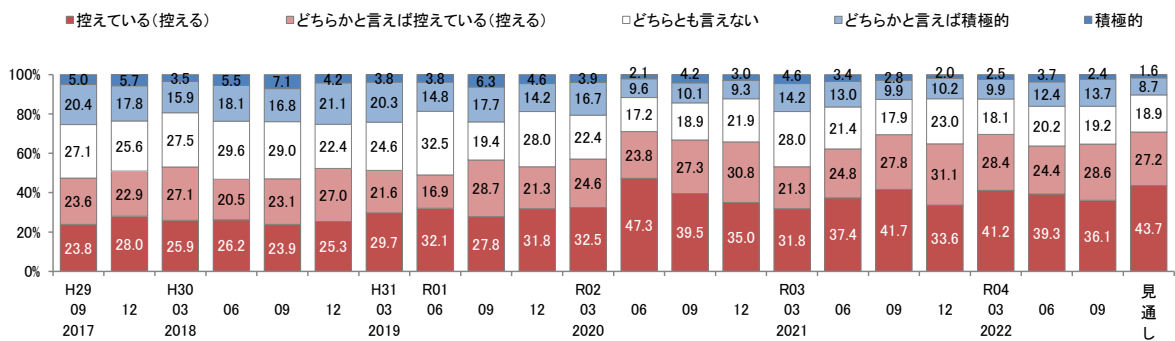
### ① 世帯（勤労）収入



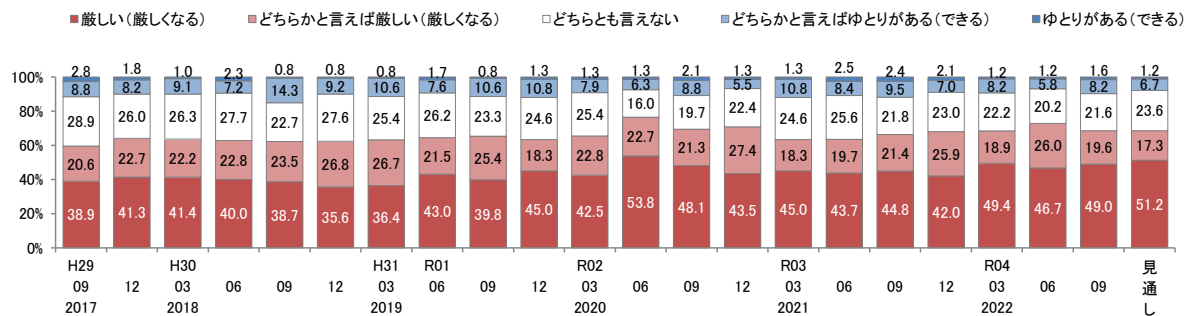
### ② 保有資産



### ③ お金の使い方



### ④ 暮らしのゆとり





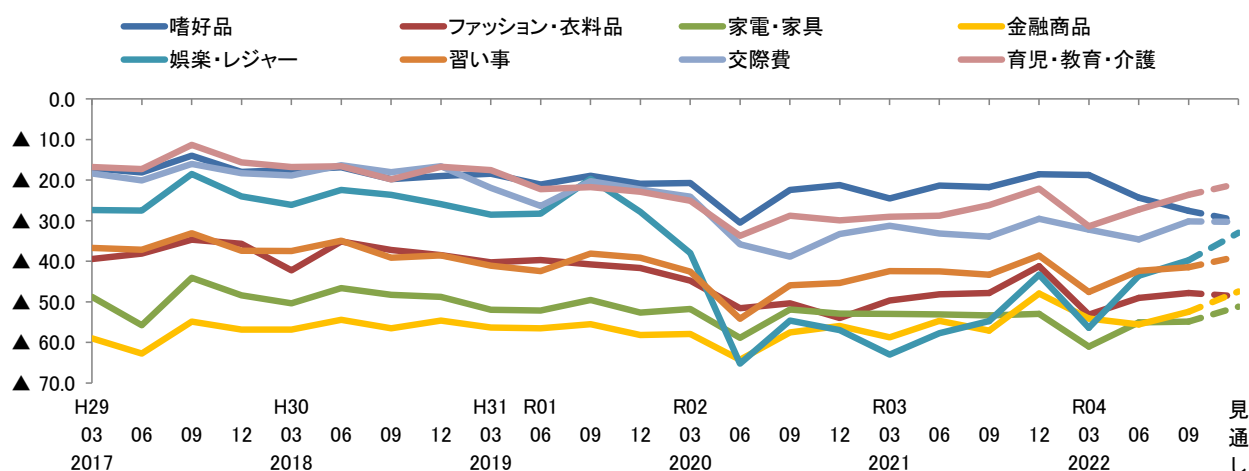
### III. 支出意向

#### (1) 支出意向DIの推移

支出意向DIの平均値は、▲39.7（前期比1.8ポイント上昇）と2期連続で改善となった。支出意向DIを構成する8つの項目をみると、「嗜好品」で悪化となった一方、「交際費」や「娯楽・レジャー」など7項目で改善となった。

今後の見通しは、▲40.8（今回調査比1.1ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 5 支出意向DIの推移



調査時期	支出意向DI									
		嗜好品	ファッション・衣料品	家電・家具	金融商品	娯楽・レジャー	習い事	交際費	育児・教育・介護	
03年	6月	▲ 42.4	▲ 21.4	▲ 48.2	▲ 53.1	▲ 54.7	▲ 57.8	▲ 42.5	▲ 33.2	▲ 28.8
	9月	▲ 42.3	▲ 21.8	▲ 47.8	▲ 53.4	▲ 57.1	▲ 54.8	▲ 43.3	▲ 34.0	▲ 26.2
	12月	▲ 36.8	▲ 18.6	▲ 41.3	▲ 53.0	▲ 48.0	▲ 43.3	▲ 38.6	▲ 29.6	▲ 22.1
04年	3月	▲ 44.3	▲ 18.8	▲ 53.2	▲ 61.1	▲ 54.1	▲ 56.4	▲ 47.6	▲ 32.2	▲ 31.4
	6月	▲ 41.5	▲ 24.3	▲ 49.1	▲ 55.1	▲ 55.6	▲ 43.6	▲ 42.4	▲ 34.6	▲ 27.3
04年	9月	▲ 39.7	▲ 27.6	▲ 47.9	▲ 54.9	▲ 52.5	▲ 39.8	▲ 41.5	▲ 30.2	▲ 23.6
	(前期比)	(1.8)	(▲ 3.3)	(1.2)	(0.2)	(3.2)	(3.8)	(0.9)	(4.4)	(3.7)
	(前年同期比)	(2.6)	(▲ 5.9)	(▲ 0.1)	(▲ 1.6)	(4.7)	(15.0)	(1.8)	(3.8)	(2.6)
04年	見通し	▲ 40.8	▲ 30.1	▲ 48.7	▲ 51.2	▲ 47.5	▲ 33.0	▲ 38.8	▲ 30.3	▲ 20.9
	(前期比)	(▲ 1.1)	(▲ 2.5)	(▲ 0.8)	(3.7)	(5.0)	(6.8)	(2.7)	(▲ 0.1)	(2.8)

#### 【DI値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り。

数値は四捨五入により一致しない場合があります。

例) 嗜好品DI値

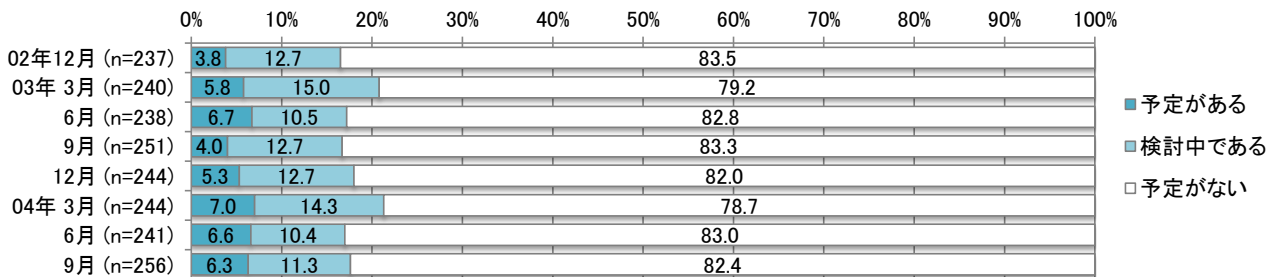
= (「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合×1.0+「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合×0.5) - (「3. どちらかと言えば控える」と回答した世帯の割合×0.5+「4. 控えている」と回答した世帯の割合×1.0)

## (2) 支出意向 (大きな買い物) の推移

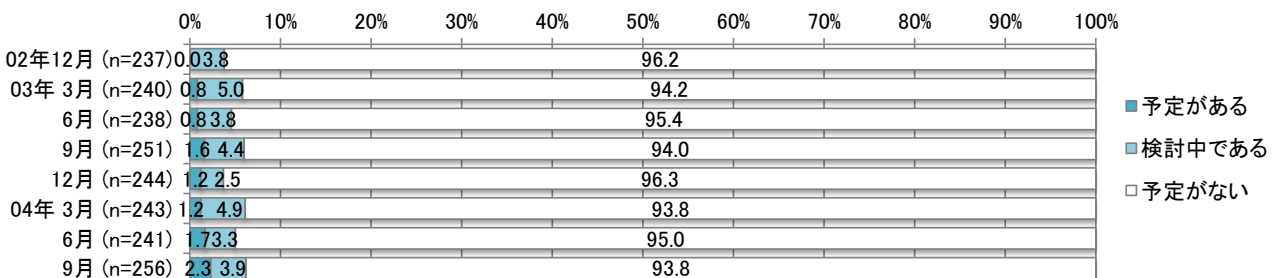
大きな買い物の支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「海外旅行」は 0.4% (前期比 ±0.0 ポイント) と横ばい、「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」は 2.3% (前期比 0.6 ポイント上昇) で上昇となり、「自家用車 (中古車含む)」は 6.3% (前期比 0.3 ポイント低下)、「住宅リフォーム」は 2.3% (前期比 0.6 ポイント低下) で低下となった。

大きな買い物 (支出) に前向きな世帯 (「予定がある」に「検討中である」を合わせた世帯) の割合は、「住宅リフォーム」が低下した一方、「自家用車 (中古車含む)」「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」「海外旅行」が上昇した。

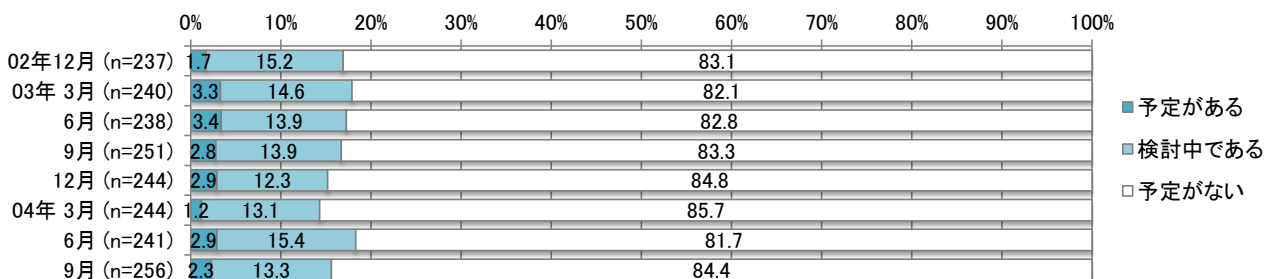
図表 6 自家用車 (中古車含む)



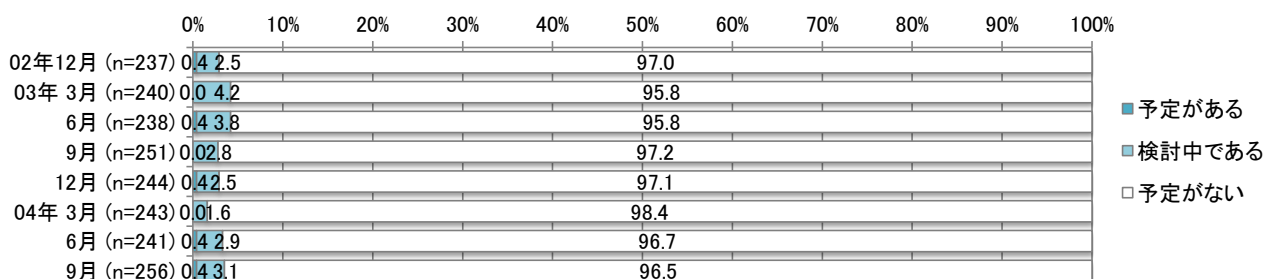
図表 7 住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地



図表 8 住宅リフォーム



図表 9 海外旅行

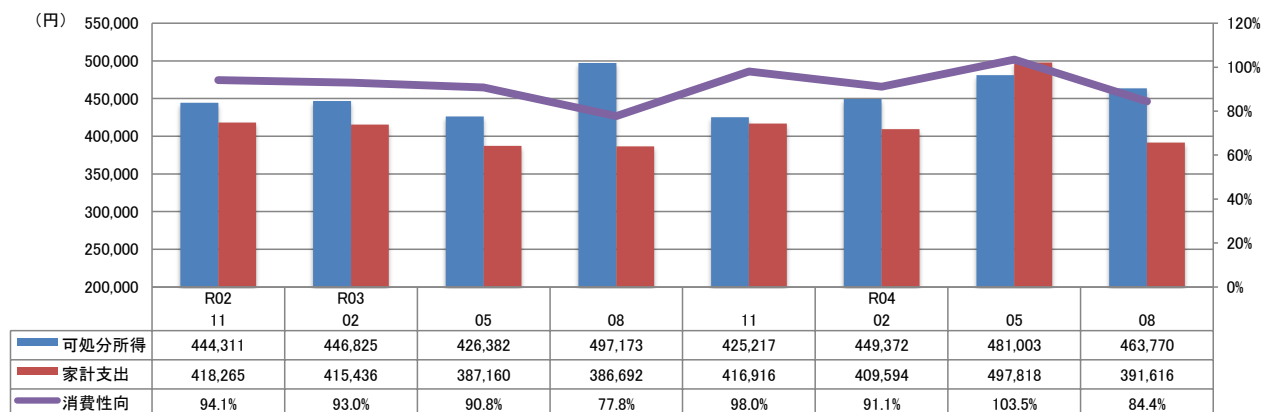


## IV. 家計簿調査

図表 10 家計簿 (256 世帯平均)

調査項目		調査年月		(単位：円)		
		03年 8月	04年 5月	04年 8月	前期比	前年同期比
給 与	世帯主の定例給与《支給額》	324,711	326,885	<b>312,853</b>	▲ 14,032	▲ 11,858
	世帯主の臨時給与《支給額》	37,920	3,938	<b>38,763</b>	34,825	843
	A. 世帯主の給与《支給額》	362,631	330,823	<b>351,616</b>	20,793	▲ 11,015
	世帯員の定例給与《支給額》	133,462	129,789	<b>130,685</b>	896	▲ 2,777
	世帯員の臨時給与《支給額》	18,441	1,173	<b>19,674</b>	18,501	1,233
	B. 世帯員の給与《支給額》	151,903	130,962	<b>150,359</b>	19,397	▲ 1,544
	<b>世帯収入合計《支給額》(A+B)</b>	<b>514,534</b>	<b>461,785</b>	<b>501,975</b>	<b>40,190</b>	<b>▲ 12,559</b>
收 入	世帯主の定例給与《手取り額》	256,740	259,418	<b>248,383</b>	▲ 11,035	▲ 8,357
	世帯主の臨時給与《手取り額》	32,540	3,586	<b>31,441</b>	27,855	▲ 1,099
	C. 世帯主の勤労収入合計《手取り額》	289,280	263,004	<b>279,824</b>	16,820	▲ 9,456
	世帯員の定例給与《手取り額》	110,414	109,243	<b>108,039</b>	▲ 1,204	▲ 2,375
	世帯員の臨時給与《手取り額》	15,828	1,095	<b>16,246</b>	15,151	418
	D. 世帯員の勤労収入合計《手取り額》	126,242	110,338	<b>124,285</b>	13,947	▲ 1,957
	<b>世帯勤労収入合計《手取り額》(C+D)</b>	<b>415,522</b>	<b>373,342</b>	<b>404,109</b>	<b>30,767</b>	<b>▲ 11,413</b>
(手 取 り 額)	1. 公的年金給付(高齢、障害、遺族年金)	38,252	7,971	<b>34,874</b>	26,903	▲ 3,378
	2. 保険給付金(医療、介護、失業保険)	817	1,646	<b>699</b>	▲ 947	▲ 118
	3. 各種手当(児童手当など)	3,048	2,436	<b>3,541</b>	1,105	493
	4. 利息、株式配当、投信分配金	1,523	1,641	<b>458</b>	▲ 1,183	▲ 1,065
	5. 事業収入(個人事業、農林水産業など)	128	757	<b>0</b>	▲ 757	▲ 128
	6. 不動産収入(駐車場、アパート家賃など)	3,881	3,107	<b>1,746</b>	▲ 1,361	▲ 2,135
	7. 有価証券売却・解約金(株、投資信託など)	3,016	405	<b>39</b>	▲ 366	▲ 2,977
	8. 不動産売却(土地、住宅、マンションなど)	0	0	<b>0</b>	0	0
	9. 中古品売却(リサイクルショップなど)	442	737	<b>379</b>	▲ 358	▲ 63
	10. 保険満期返戻金	11,905	2,091	<b>1,662</b>	▲ 429	▲ 10,243
	11. 保険一時金(生命保険、損害保険など)	2,192	14,699	<b>4,644</b>	▲ 10,055	2,452
	12. 相続、贈与、退職金	5,556	42,181	<b>0</b>	▲ 42,181	▲ 5,556
	13. 祝金、謝礼金、香典など	742	2,472	<b>5,232</b>	2,760	4,490
	14. 身内からの仕送り	3,738	8,384	<b>2,492</b>	▲ 5,892	▲ 1,246
	15. 借り入れ(カードローン、キャッシング)	1,394	4,643	<b>411</b>	▲ 4,232	▲ 983
	16. その他	5,017	14,491	<b>3,484</b>	▲ 11,007	▲ 1,533
	E. その他収入(控除後)	81,651	107,661	<b>59,661</b>	▲ 48,000	▲ 21,990
	<b>I. 収入計(C+D+E)</b>	<b>497,173</b>	<b>481,003</b>	<b>463,770</b>	<b>▲ 17,233</b>	<b>▲ 33,403</b>
支 出	1. 食費(飲食会費は含まない)	54,741	55,317	<b>55,500</b>	183	759
	2. 住居費(家賃、駐車場、修繕)	21,847	25,063	<b>15,301</b>	▲ 9,762	▲ 6,546
	3. 水道・光熱費(電気、ガス、上下水道、灯油など)	25,571	30,184	<b>26,677</b>	▲ 3,507	1,106
	4. 生活用品(生活雑貨、家事消耗品など)	12,107	12,046	<b>12,310</b>	264	203
	5. 被服・装飾費(衣服、アクセサリ等)	9,575	9,756	<b>8,959</b>	▲ 797	▲ 616
	6. 医療・介護・理美容(通院、医薬品など)	15,365	16,621	<b>14,095</b>	▲ 2,526	▲ 1,270
	7. 交通費1(バス、鉄道、飛行機、高速道路料金など)	2,227	3,120	<b>3,444</b>	324	1,217
	8. 交通費2(ガソリン代)	16,465	16,482	<b>17,862</b>	1,380	1,397
	9. 自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)	14,669	27,980	<b>10,859</b>	▲ 17,121	▲ 3,810
	10. 通信費(電話、新聞、受信料、プロバイダー料金など)	23,093	22,887	<b>22,193</b>	▲ 694	▲ 900
	11. 教育費(授業料、教材費、学習塾、部活費用など)	14,214	17,845	<b>12,500</b>	▲ 5,345	▲ 1,714
	12. 育児費(子ども用品、保育園、幼稚園など)	4,595	3,691	<b>4,436</b>	745	▲ 159
	13. 交際費(飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など)	13,733	11,056	<b>19,255</b>	8,199	5,522
	14. 娯楽、趣味(旅行、レジャー、映画鑑賞など)	9,461	9,543	<b>10,954</b>	1,411	1,493
	15. 習い事(英会話、料理教室、スポーツクラブなど)	2,924	2,680	<b>3,309</b>	629	385
	16. 高額商品(パソコン、家電、家具、インテリアなど)	7,397	9,832	<b>6,814</b>	▲ 3,018	▲ 583
	17. 金融商品1(株、国債、外貨、金など)	1,223	5,858	<b>13,846</b>	7,988	12,623
	18. 金融商品2(投資信託、変額・定額年金保険)	12,818	10,452	<b>11,133</b>	681	▲ 1,685
	19. 借入返済1(住宅ローン)	31,046	110,867	<b>31,031</b>	▲ 79,836	▲ 15
	20. 借入返済2(自動車、学費、カードローン)	16,631	11,715	<b>13,400</b>	1,685	▲ 3,231
	21. 税金、各種保険料支払い(給与天引き以外)	36,165	49,644	<b>34,836</b>	▲ 14,808	▲ 1,329
	22. 身内への仕送り(学生など)	7,446	6,403	<b>8,692</b>	2,289	1,246
	23. 小遣い、その他	33,379	28,776	<b>34,210</b>	5,434	831
	<b>II. 支出計</b>	<b>386,692</b>	<b>497,818</b>	<b>391,616</b>	<b>▲ 106,202</b>	<b>4,924</b>
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		77.8%	103.5%	<b>84.4%</b>	▲ 19.1%	6.6%
平均貯蓄性向(1-平均消費性向)		22.2%	▲ 3.5%	<b>15.6%</b>	19.1%	▲ 6.6%

図表 11 家計の収支と平均消費性向の推移



家計簿調査によれば、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 464 千円と前年同期に比べて 33 千円の減少となった。勤労収入では、「世帯主の勤労収入合計（手取り額）」が前年同期比で 9 千円の減少、「世帯員の勤労収入合計（手取り額）」は 2 千円の減少となり、「世帯勤労収入合計（手取り額）」は 404 千円（前年同期比 11 千円減少）となった。「その他収入（控除後）」は 60 千円（前年同期比 22 千円減少）で、減少額の大きな項目としては「保険満期返戻金」（前年同期比 10 千円減少）や「相続、贈与、退職金」（前年同期比 6 千円減少）となった一方、大きく増加した項目はなかった。

支出面では、支出計が 392 千円と前年同期比で 5 千円の増加となった。内訳をみると、減少額が大きな項目は「住居費（家賃、駐車場、修繕）」（前年同期比 7 千円減少）で、増加額の大きな項目は「金融商品 1（株、国債、外貨、金など）」（前年同期比 13 千円増加）や「交際費（飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など）」（前年同期比 6 千円増加）となった。

その結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 84.4%となり、前年同期に比べて 6.6 ポイントの上昇となった。

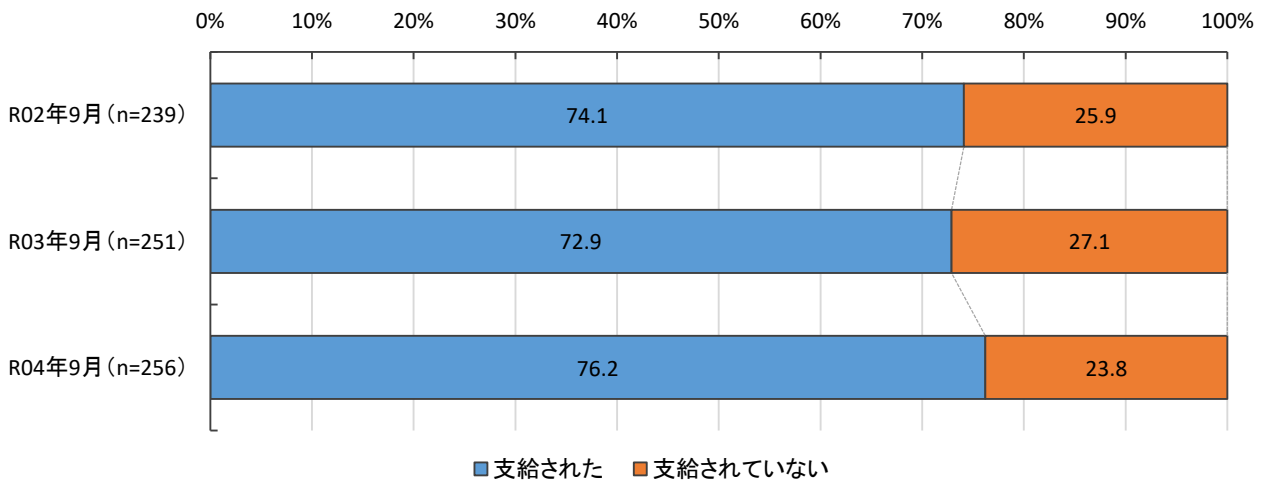
## V. 特別調査

### 1. 夏季ボーナスの支給状況と使い道について

#### (1) 夏季ボーナス支給の有無

家計の主たる収入を得ている人について、夏季ボーナスが支給されたかどうかを尋ねたところ、「支給された」が 76.2%（前年比 3.3 ポイント上昇）と前年から上昇となり、7 割以上を占めた。

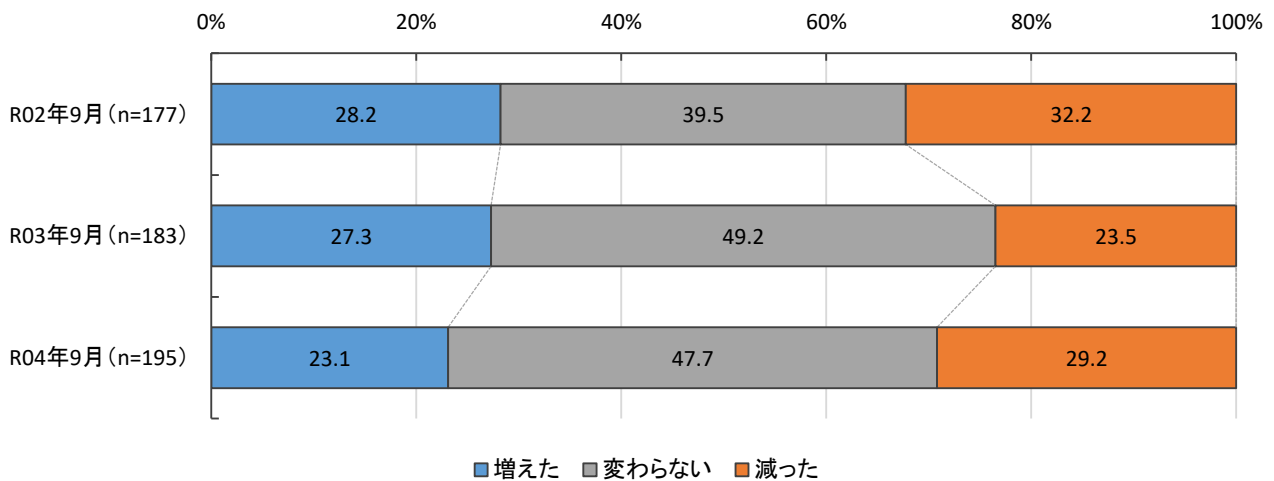
図表 12 夏季ボーナス支給の有無について



#### (2) 支給状況

夏季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、前年と比べた支給額の状況を尋ねたところ、「変わらない」が 47.7%（前年比 1.5 ポイント低下）と最も高く約 5 割を占め、次いで「減った」が 29.2%（前年比 5.7 ポイント上昇）、「増えた」が 23.1%（前年比 4.2 ポイント低下）となった。「増えた」世帯の割合は 3 期連続で低下となった。

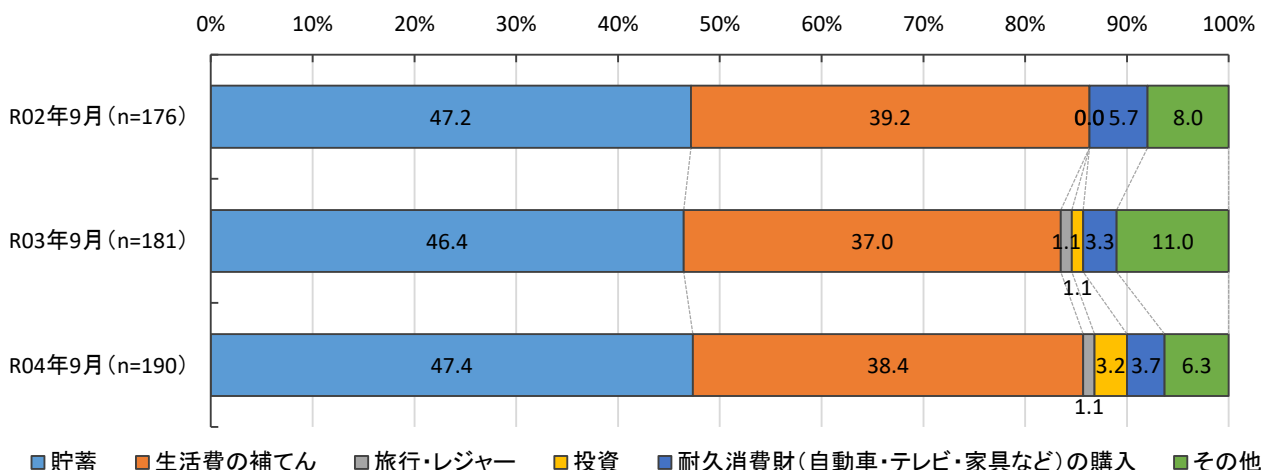
図表 13 前年の夏季ボーナスと比べた支給状況



### (3) 主な使い道

夏季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、ボーナスの使い道（もっとも金額が大きいもの）を尋ねたところ、「貯蓄」が47.4%（前年比1.0ポイント上昇）ともっとも高く、次いで「生活費の補てん」が38.4%（前年比1.4ポイント上昇）となった。「旅行・レジャー（1.1%）」は横ばい、「貯蓄」「生活費の補てん」「耐久消費財（自動車・テレビ・家具など）の購入（3.7%）」「投資（3.2%）」は上昇した。

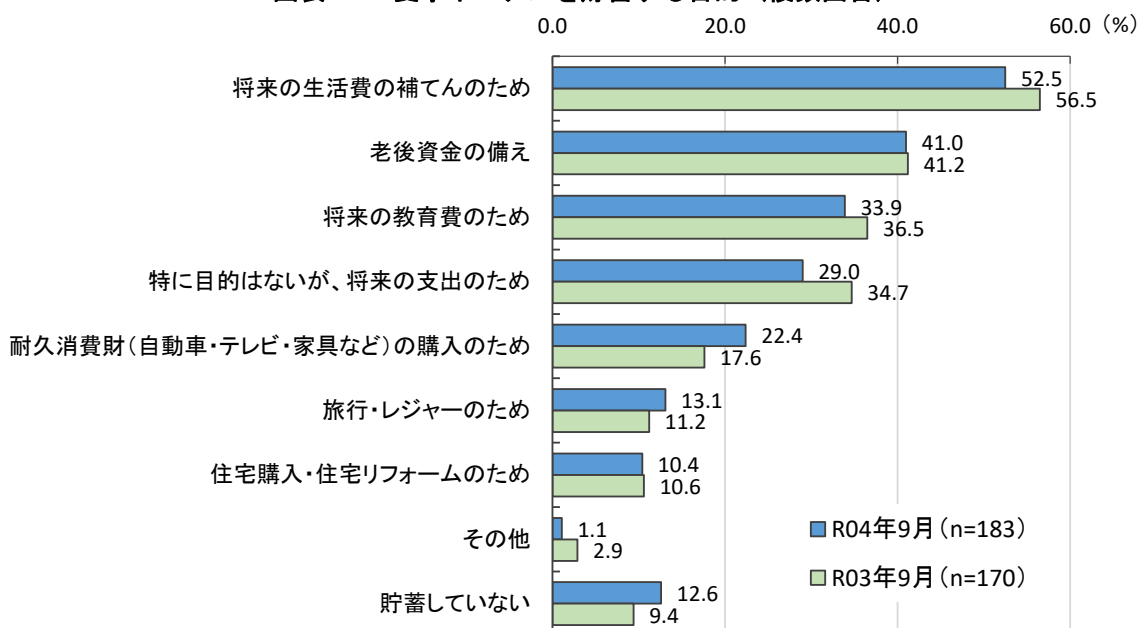
図表 14 主な使い道



### (4) 夏季ボーナスを貯蓄する目的

夏季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、ボーナスのうち貯蓄にあてた分について、その目的を尋ねたところ、「将来の生活費の補てんのため（52.5%）」がもっとも高く5割以上を占めた。次いで「老後資金の備え（41.0%）」、「将来の教育費のため（33.9%）」、「特に目的はないが、将来の支出のため（29.0%）」と続き、前年と同様の結果となった。

図表 15 夏季ボーナスを貯蓄する目的（複数回答）



## VI. 調査の概要

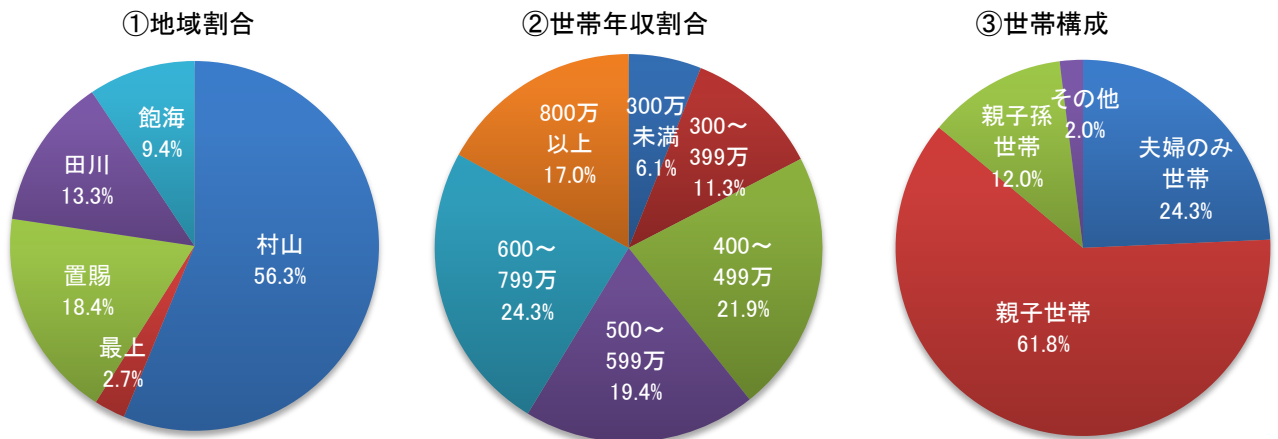
### 1. 調査の目的

山形県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査の内容

- ◆ 郵送調査専用モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数：271 世帯 有効回答数：256 世帯 回答率：94.5%

### 3. 回答モニター属性



### 4. 調査の対象者

- ・山形県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

### 5. 調査期間

- ・令和4年9月1日（木）～15日（木）

#### <お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研  
 リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子  
 〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F  
 TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038  
 E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : https://www.fir.co.jp/